



教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』(教皇フランシスコ)―「ミッション2030」―祈りを深める

■四旬節中のお手伝い募集のお知らせ■

- ・3月14日(水) 9時~12時 ヨセフホール 毎年約8,000世帯へ発送する「年間予定表」の封入作業のお手伝い。(参加人数によっては予定時間前に終了します)
- ・3月23日(金) 10時~12時 ヨセフホール 受難の主日(枝の主日)に使用する棕櫚の枝切作業。事務室へお申込みください。持ち物(エプロン・軍手・花ばさみ)。
- ・3月31日(土) 9時~12時 ヨセフホール イースターエッグの飾りつけ作業。お子様も参加できます。事務室へお申込みください。持ち物(エプロン)。

復活に向けて

少しずつ日が長くなり、穏やかな日差しを感じる頃となりました。外堀の土手沿いに植えられている桜の木々は、冷たい外気に鍛えられた秘めた力に促がされ、葉のない枝を伸ばしています。枝に葉がなくても復活祭の頃に満開になる桜並木を知る私たちは、おのずと春への期待に心をふくらませています。

私は子供の頃、九段にある叔母の家に行き、四谷から飯田橋に至る外堀の土手や公園で良く遊びました。その叔母の縁で私は援助修道会に出会いました。シスターたちが聖イグナチオ教会と修道院の間を大きな傘と黒い袋を持って行き来している姿が印象的でした。

異国の地で労を惜しまず働くシスターたちの姿に、子供心にも温もりを感じたものです。

援助修道会は1856年パリで創立され、1935年に広島に来日し日本創立となりました。その10年後、原爆を受け、死と化した広島で人々と苦しみを共にしました。1947年イエズス会からの招きを受けて、東京の市谷に修道院を創立しました。

東京でのシスターたちの活動は、近隣の子供たちの為の保育園、要理を中心とした青少年対象の宣教司牧、外国語教授を中心としたカルチャーセンター、日本在住のフランス人駐在員の子弟教育等でした。こうした活動を通して多くの受洗者が出て、私もその中の一人でした。これらの受洗者たちは、聖イグナチオ教会に属し、ホイベルス神父様から受洗後の導きを受けました。「善い事なら何でも」と言う創立者の心を受

けて働いているシスターたちでしたが、私は何よりもシスターたちの快活な明るさに魅了されました。第2ヴァチカン公会議後、その精神にのっとなって援助修道会で行われていた司牧活動は、聖イグナチオ教会に移されました。シスター達は教会学校に出向き新しい在り方で教会学校に関わりました。

今なお教会学校にシスター達が関わっているのは、このような歴史があるからです。

公会議後、シスターたちの使徒職はますます社会に開かれ多岐に渡っていきました。援助修道会は、時代の変化に対応しながら霊的同伴、宣教司牧、教育、福祉、医療など社会の様々な場で専門職も含め、創造的且つ自由に、単純、快活、委託の心で福音の喜びを分かち合うことに務めています。

私は直接イグナチオ教会での働きはしていませんが、小教区の関りを意識し「Mission 2030」の歩みを自分の場で大切にしています。

現在の聖イグナチオ教会は約16,500人と言うメガチャーチとして日本社会のみならず、世界に向けて大きな役割を担う教会であると思われます。それ故、より一層、信徒、司祭、修道者が、聖イグナチオの霊性家族として一体となり母なる教会の懐となるよう人々に開かれて行けたらと願っています。

聖霊が復活のキリストの人間性を私たちの内に強めて下さいますように！

援助修道会 久守妙子

2018年 四旬節と復活祭の予定

- 3月21日(水) 祝日 四旬節黙想会 10:00~14:30 主聖堂
15:00 からミサ
- 3月25日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 3月29日(木) 聖木曜日 主の晩餐 19:00
- 3月30日(金) 聖金曜日 主の受難(大斎・小斎) 19:00
- 3月31日(土) 聖土曜日 復活徹夜祭 19:00
- 4月1日(日) 復活の主日 聖体奉仕者任命式 10:00 ミサ
洗礼式 15:30 ミサ

十字架の道行

下記の金曜日 18:45 から ザビエル聖堂にて
3月2日、3月9日、3月16日、3月23日
3月30日は 15:00 から マリア聖堂にて

3月の共同祈願

いつも主イエスとともに歩めるように力づけてください。
苦しいときには、主イエスのご受難に心を合わせ、
十字架を担っていくことができますように。

朝の祈りにおいて：恵みを願って一日を始めよう

今日一日、主イエスとともに生きていくことができる
恵みを願いましょう。四旬節なので、とくに自分の苦しみや
十字架を意識し、イエスとともに担っていくことが
できるように祈りをささげます。

晩の祈りにおいて：今日一日の活動を振り返ってみよう

今日の苦労や重荷を静かに受けとめて、
ご受難の苦しみを思いめぐらしてみましよう。

「ミッション2030」— 祈りを深める⑨

— 促進チームの活動を振り返る —

2017年4月にスタートを切った「ミッション2030」は「祈りを深める」を初年度のテーマに定め、祈りのカード、リビング・ロザリー、キリシタン時代をテーマとする教会黙想会など様々な企画や催しを行ってきました。そのひとつである「祈りを深めるセミナー」は毎月開催され、大勢の皆さまが集い、祈りについて考え、分かち合うなど実り多い時間を過ごせました。これは私たちミッション促進チームにとって大きな喜びであり励みとなりました。皆さまの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げます。

2015年に「教会生活ワークショップ」活動が立ち上がり、教会と私たち信徒の信仰生活について、時間をかけて全信徒に問いかけ、その結果は教会の中長期的なビジョンとなる「ミッション2030」として結実しました。前文と「4つの柱」は2016年9月の宣教司牧評議会で承認され、同時に、その下にビジョンを具体的に促進する私たち促進チームが設置されました。当初、「促進チームは、既存の活動を差し置いて、号令をかけ推進していくプロジェクトチームでは？」というお声を耳にしたことがあります。それは誤解であり、大仰な組織ではなく、むしろ「促進=触媒」の表現の方がご理解いただけ易いかも知れません。現に、促進チーム以外で「ミッション2030」のビジョンを既に実践、推進されている活動グループは実際多く存在し、その中には1999年の献堂時の「意識の転換」運動以来の伝統あるものもあります。ただ、アンケートなどからも計り知ることができますが、課題や問題を抱えている既存の活動があることもまた事実でしょう。そこに「ミッション2030」のビジョンが生きて在る限り、促進チームの目的や機能と矛盾することはありません。

促進チームでは教会活動連絡会議や委員会・連絡会など様々な機会を通じて、相互に交流を行いビジョン実現に向け共に進んでいます。一方、既存の活動にはない新しいアイデアを募り、新企画、新グループの組成などにも力を注いでいます。将に、過去からの継続性と大胆な革新性の両面が大事だと考えています。

既存グループとの協力と連携、新しい活動の創造に加え、イエズス会の姉妹教会との絆も強めていきます。同じ悩みや問題を抱える他教会の皆さまと互いに問題意識を共有し助け合うことが今求められています。

(P.4へ続く)

「福音ワークショップ」へのお誘い

2018年度の教会テーマは、『勇気と寛大な心を持って出かけて行きなさい』 ミッション 2030 - 福音を伝える、になります。引き続き祈りを深めながら、一人ひとりが喜びのメッセージを運ぶ人になっていけるような、ワークショップを企画しています。

ワークショップの第1回目は、4月22日(日) 13時～15時、ヨセフホールにて行ないます (年間5回開催)。英神父さまの「福音とは？」の講話の後、「あなたにとって福音とは？」「洗礼を受けた時の気持ちを思い出そう！」をテーマに、参加者同士で分かち合う時間を持ちたいと考えています。2回目以降は、「あなたの置かれた場所で、キリスト者として生きることの難しさは？」「人から、キリスト教のこと、信仰のことを訊かれて困ったことは？その時あなたはどうか答えたか？」といった内容を考えています。

数年前の話になりますが、私が駅から歩いて職場へ向かう際、毎日横断歩道のところで旗を持って、小学生の登下校を見守る高齢の男性がいらっしゃいました。この方の、すれ違う一人ひとりに「おはよう」と声をかける時の笑顔と存在が、とても温かでした。私はその方が立つ道路の方を、わざわざ通って挨拶を交わし、一日を気持ちよく始めていたのを思い出します。ささやかな日常の中に、福音的な要素を発

見することができると思います。ワークショップを通して、自分の周りの人がすでに行っている福音的なことや、自分自身の福音的な要素にも気づき、互いに響き合えるようなワークショップにしていきたいと願っています。

最後に、テゼの祈りの集いで歌われる「何も持たずに」をご紹介します。

「何も持たずに行きなさい よろこびの便り告げに 信頼の火ランプに灯して 恐れず巡り行きなさい」(作詞・作曲：シスター山本きくよ)

初めてこの曲を聴いた時、「信頼の火ランプに灯して」という箇所が心に留まり、とても勇気づけられました。それと同時に、神さまから遣わされ、宣べ伝える人々がいてくれたからこそ、自分もイエスキリストに出会い、今ここに生きているのだな、と思いました。この歌に倣って、一緒に旅をしようと呼びかけてくださる神に信頼して、歩んでいけますように。

*福音ワークショップの詳細は、今後ポスター、チラシ等にてご案内します。多くの方のご参加をお待ちしています。

「福音を伝える」グループ 佐藤和央



アジアニュースデー (AYD 7th) を通して受けた1番のお恵みは、今回のテーマである「アジアの多様な文化の中で福音を喜んで生きる」を体験する中で、自分の信仰と向き合い、深められたことであった。

同じ信仰を持つ約2,000人の青年との出会いは、身近なアジア諸国にこれだけ多くの、しかも同世代の仲間がいることを実感した瞬間であった。普段の生活の中でほとんどカトリック信者との出会いがない私にとって、彼らと信仰の喜びを分かち合えたことは大きな喜びである。

また、様々なアクティビティを通して、文化背景も価値観も異なる約28か国・地域の人々が同じ神を信仰している奇跡を肌で感じる事ができた。さらに、様々な文化や宗教が混在し、世界最大のイスラム人口を持つインドネシアという地にカトリックが共存している、まさに“多様性”の共存を体感できたのは非常に意義深かった。特に、AYD 7thの間ムスリムの方々との交流を通じて、異なるものとして相手を排除するのではなく、理解を示し尊重す



ブルウォケルト教区でのミサ

ることで共存していくことが可能だと強く感じた。

今回受けたお恵みが、自分に与えられたミッション：平和の実現のための礎となっていることを実感している。感謝のうちに。

マルガレータ・セシリア 飯田梨紗子
(現青年会、元侍者、元中学生会リーダー)

四旬節黙想会

3月21日(水) 春分の日

テーマ:「教皇フランシスコ 祈りとミッション(使命)」

指導: ホアン・アイダル神父(イエズス会・上智大学
神学部教授)

場所: 主聖堂

午前の部 10時~11時半 講話と黙想
午後の部 13時~14時30分 講話と黙想
15時からミサ



イースターエッグの飾りつけ

2月の宣教司牧評議会から

- ・4月1日(日)復活祭でのイースターエッグの頒布方法を変更することが承認された。変更内容については関係グループと検討を進める。

世界子ども助け合いの日の献金

「世界子ども助け合いの日」は、子どもたちが使徒職に目覚め、思いやりのある人間に成長することを願って制定されました。1月28日(日)の献金1,090,548円はローマ教皇庁に送られ、世界各地の恵まれない子どもたちのために使われます。皆さまのご協力に感謝いたします。



枝切り作業

(P. 2からの続き)

促進チームは、「ミッション2030」の4本目の柱『新しい「きょうどう」』のテーマ年(2020年)までの4年間の時限的な組織ですが、前文にある「私たちは、・・・皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も老いも若きも)」との意味を強く心にとめ、引き続き活動の透明性を重んじ、広報活動の充実を図ります。さらに、教会の組織の一つとして宣教司牧評議会に適宜、適切に活動状況を報告し教会の諸規則を遵守して参ります。

教皇様のお言葉「イエスと教会は分かつことはできず、キリストを愛して、教会は愛さないということはいできない。教会という神の大きな家族こそが、わたしたちをキリストに導く」(2015.1.1)を噛みしめながら、皆さまと共に「ミッション2030」を前に進めていきたいと思ひます。

ミッション2030 促進チーム 小島修矢

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00/12:00/18:00 (Japanese)

(土曜日18:00は主日ミサ)

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

7:00/8:30/10:00/18:00

(Japanese)

12:00 (English) / 13:30 (Español)

Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)

Mary Chapel 12:30 (Português)

16:00 (Polish)

主任司祭: 佐々木良晴

助任司祭: 英 隆一郎

(アルファベット順) ギユンタ・ケルクマン

田丸 篤

協力司祭: 平林冬樹

ヘネロン・フローレス

ハビエル・ガラルダ

シスター: イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

アヴェリーノ・アウレア・ビスナー

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

カトリック麴町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083 千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス: <http://www.ignatius.gr.jp>